

表紙のこぼ (日本の水と森シリーズ)



菊池渓谷 熊本県 菊池市

菊池川の源流域にある菊池渓谷は、阿蘇外輪山北西部の標高500~800mに位置する憩いの森。周辺の温泉開発に伴い知られるようになったが、手つかずの原生林が残る美しい森林と変化に富む溪流には、夏でも平均水温13度という清流が流れ、天然のクーラーとも称される。下流21市町村では、重要な水源林を保護するため、「菊池川流域同盟」を結成し、「河川を美しくする条例」を定めて、河川の監視と汚染防止、水源地域への植林など、地域が一体となって多様な取り組みを行っている。菊池渓谷は日本の名水百選、森林浴の森100選にも選定されている。

CONTENTS

- 支部見聞録 (東海支部) 2
From 伊勢
◎秋季大会拡大版
- LS研総合発表会2013 6
- ICT 基礎講座 Close-Up 10
クラウドファースト
新規システム構築時の最有力選択肢はクラウド
- トップは語る 14
菅公学生服株式会社
代表取締役社長 尾崎 茂 氏
- 講演録 16
株式会社マザーハウス
代表取締役兼チーフデザイナー
山口 絵理子 氏
- 豊かに生きる誌上セミナー
HUMAN HUMAN 18
株式会社ミュゼ
代表取締役 齋藤 直美 氏
- Family's Information 19



神の住まいを新たに~ 伊勢神宮式年遷宮

神が鎮座する場として2000年以上の時を経てきた伊勢神宮。今年の10月には、いよいよ20年に一度の遷宮が行われる。この式年遷宮は1300年にわたって営々と続けられてきた伊勢神宮最大の祭り。そこには、深い意味と祈りの心が込められている。

すべてを新たにして永遠を祈る 飛鳥時代から受け継がれた神事

いつも参拝者が絶えることのないお伊勢さんとはいえ、ここ最近の人出の多さには格別のものがある。石畳の両側に土産物店や料理屋が並ぶおはらい町も宇治橋前の広場も、神宮へと歩を進める人の姿でいっぱい。20年に一度行われる式年遷宮。そのクライマックスである遷御を10月初旬に控えて、伊勢はいつにも増したにぎわいに湧く。式年とは「決められた年」。そして遷宮とは「ご神体を新しい社殿にお遷しすること」をいう。伊勢神宮では690(持統天皇4)年から式年遷宮が始められ、以来1300年余り、応仁の乱から戦国時代の間に中断はあるものの営々とその伝統が守られてきた。

伊勢神宮と一般には呼び習わされているが、正しい名称はただ「神宮」という。宮は御屋が語源だといひ、神宮とは本来は唯一伊勢のもののみをいうのだそう。皇室の祖神であり日本人の総氏神でもある天照大神を祀る内宮、そして天照大神に捧げる御饌(神の食事)を司り、衣食住の神である豊受大神を祀る外宮、そのほか別宮や摂社・末社・所官社から神宮は構成され、その数は総計125にもものぼる。式年遷宮ではこのうち内宮、外宮、14の別宮と玉垣や御門、さらには鳥居や橋、御装束や神宝をすべて一新。まさに伊勢神宮で最大の、そして最も重要な祭りだ。

実は神宮では、朝と夕に神に食事を奉る日別朝夕大御饌祭など、毎日行われるものも含めて、年間1,500もの祭りが行われている。その根幹にあるものは稲作だ。例年の祭りの中でも最も重要なものひとつである神嘗祭では、神にその年最初に穫れた稲の初穂を奉じるが、この時も祭りに使う道具類は毎年作り直して新しくする。そしてこの神嘗祭をさらに大規模にして、社殿まで新たにするのが式年遷宮だ。そのため式年遷宮は大神嘗祭とも呼ばれる。

すべてを新しくすることを繰り返して、清らかさとみずみずしい力の永遠を祈る。式年遷



▲▼JR宇治山田や近鉄五十鈴川駅などには遷宮を祝う幟がはためき、内宮の前に続くおはらい町は連日の人で賑わっている



取材・写真協力/神宮司庁・三重県観光連盟



▲2005(平成17)年5月2日に行われた山口祭の様子。用材を伐り出す御杣山の神を祀る祭儀だ



▲内宮の正宮。この左の敷地に新しい正宮が完成間近だ。遷御の後、現在の社殿は解体される



▲神々しい伊勢神宮の夕日

宮の根底には、こうした神道の「常若」の精神が息づいている。また、天照大神は太陽の象徴ともされる神。陽が沈んで1日は終わってしまうが、やがてまた昇ってきて新たな1日が始まる。式年遷宮はそんな永遠に続く再生のサイクルも象徴しているといえるだろう。

材を伐り出す山は御杣山と呼ばれ、かつて内宮は神路山、外宮は高倉山と、用材はすべて神宮宮域の森から調達されていた。しかし自然のままに任せていたため、やがて檜が不足するようになって鎌倉中期からは近隣の山で調達するようになり、江戸時代中期からは木曾が御杣山となってきた。



2013(平成25)年の遷御に向けて 8年がかりの式年遷宮

参拝者が多く、あたりが喧噪に包まれていても、五十鈴川の清らかな流れと上流の山の緑を眺めながら宇治橋を渡り、玉砂利を踏めば誰もがきりと身が引き締まる思いがする。内宮の正宮の門の前に立って拝礼すると、左隣の敷地に巡らされた塀の向こうに、新しい社殿が金色に輝く檜木を載せた美しい萱葺き屋根をのぞかせているのが見える。神宮では社殿が建つ敷地の隣に同じ広さの敷地が確保されていて、遷宮の度に隣の御敷地に新しい社殿を建てては、神様にお遷りいただく。ひと口に遷宮というが、実はその日よりはるかに遡る8年前から、遷宮の諸祭儀は始まっている。幕開けは2005(平成17)年5月2日の山口祭。内宮の背後にある神路山と外宮の背後にある高倉山の入り口で、用材の伐り出しと運搬の安全が祈られた。以後、30以上にもわたる祭儀や行事を積み重ねて、遷宮は進められていくのだ。

祭儀は用材に関するもの、造営に関するもの、遷御自体に関するものと大きく3つに分けられる。まずは山口祭から始めて用材に関する祭儀が続く。地元伊勢の旧神領の住民や全国からの奉仕者が参加する御木曳という行事もあり、2006(平成18)年に第一次、2007(平成19)年に第二次と2度にわたって、内宮には五十鈴川経由の川曳きで、外宮には巨大な御木曳車に載せての陸曳きによって用材が運び入れられた。

社殿や玉垣、門などの造営には約1万本の檜を必要とする。用

御木曳には20万人以上が奉仕した。写真は内宮の用材を運ぶ川曳き▶






◀宇治橋と鳥居。これらの一部にも遷宮時の古材が使われている

それを繰り返すことで、建築・工芸ともにいにしえから伝えられる技術の承継にも大きな役割を果たしているのだ。遷宮が終わればそれまでの社殿の古材は全国の神社などで再利用され、外宮正殿の棟持柱（棟を支える柱）は宇治橋の外側の鳥居に、内宮正殿の棟持柱は内側の鳥居に使われる。また神宝類は以後も大切に保管されるという。

神様に新しい社殿にお遷り願う遷御（非公開）が、すべての灯りが消された浄闇（じょうあん）の中で行われるのは内宮が10月2日、外宮は10月5日。木の香も清々しく真新しい社殿が姿を現し、また新たな20年が時を刻み始める日も近い。

別冊 FROMはウェブサイトへ

eふあみり もあわせてご覧ください!
<http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/> 
赤福など伊勢を訪れたときに、ぜひ味わっていただきたい名物をご紹介します。

の深い関係が見てとれる。

社殿造営と並行して、御装束（神様の装束類や社殿内を飾る布類）、神宝（武具や楽器、日用品など神々のための調度や道具類）714種、1,576点が最高レベルの技術者によってあつらえられる。若手として参加した技術者が20年後には指導的立場に立つ。

FUJITSUファミリー会

2013年度 秋季大会のお知らせ



名古屋国際会議場

- 開催期日：2013年11月7日（木）～8日（金）
- 開催場所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）
- 内容：講演・セッション・懇親会・オプション行事（視察5コース、ゴルフ2コース）

スケジュール 11月7日（木）

- 開会・挨拶
- 特別講演「スマートモビリティとつながる未来」
●トヨタ自動車株式会社 常務役員 IT・ITS 本部長、事業開発本部長 **友山 茂樹 氏**
- 記念講演「日本の神話と伊勢神宮 ～式年遷宮に秘められた意味～」
●作家・慶應義塾大学講師 一般財団法人竹田研究財団理事長 **竹田 恒泰 氏**
- セッション（3会場同時進行）
- セッション1
「『世界の山ちゃん』が目指す会社経営 ～立派な変人たれ！～」 ●株式会社エスワイフード 代表取締役会長 **山本 重雄 氏**
- セッション2
～LS 研究委員会 2012年度 Leading-edge Systems 研究 最優秀賞～
「『クラウド時代の情報システム企画の進め方』－視界良好！曇らせないコツは企画にありー」
●株式会社ヤクルト本社 情報システム部 **工藤 倫人 氏**
- セッション3
「『標的型サイバー攻撃時代のセキュリティ対策指針 ～その日が来る前に「すべきこと」と「できること」～」
●富士通株式会社 クラウドビジネスサポート本部 情報セキュリティセンター センター長 **奥原 雅之 氏**
- 懇親会

オプション行事：11月8日（金）＜1日コース＞、8日（金）～9日（土）＜1泊2日コース＞

- 視察Aコース（日帰り）『トヨタ自動車の工場見学&とよたエコフルタウン&リニア・鉄道館』コース
- 視察Bコース（日帰り）『トヨタ自動車の工場見学&自動車博物館&リニア・鉄道館』コース
- 視察Cコース（日帰り）『尾張名古屋の歴史めぐり&あつた蓬萊軒“ひつまぶし”』コース
- 視察Dコース（日帰り）『20年に1度の大祭“式年遷宮” 伊勢神宮』コース
- 視察Eコース（1泊2日）『世界文化遺産の“白川郷合掌造”と“小京都・飛騨高山”』コース
- ゴルフコース 東建多度カントリークラブ・名古屋、三好カントリー倶楽部



名古屋のみどころ

名古屋城本丸御殿

名古屋城本丸御殿は、初代尾張藩主徳川義直の居城として1615（慶長20）年



に建てられ、三代将軍家光の上洛にそなえて1634（寛永11）年には最高の格式を持つ御殿となった名建築だ。惜しくも1945（昭和20）年の空襲で天守閣とともに全焼したこの本丸御殿が、目下着々と復元されつつある。現在では入口にあたる玄関、謁見の場である表書院などが完成している。

本丸御殿は詳細な図面や写真類があるため建築の忠実な復元が可能で、しかも戦争中は障壁画を取り外して疎開させていたことで焼失を免れて、現在1047面が国の重要文化財に指定され、これらも忠実な模写復元が進められている。白木も清々しい、いかにも武家の住まいらしいシンプルかつ豪壮な玄関や、当代きっての狩野派の絵師たちが描いた絵を復元した豪華絢爛な書院の床の間絵、襖絵の数々が徳川の威光を今に伝える。新技術を導入しつつも当時の工法や材料を追求する工事の様も公開されているので、興味や理解もいっそう深まることだろう。

熱田神宮

名古屋市街の南、緑の森に囲まれた熱田神宮は、「熱田さん」と呼ばれて



人々に親しまれている存在であると同時に、古来から伊勢の神宮に次ぐ格別に尊い宮として崇敬と信仰を集めてきた。ご神体は三種の神器の一つである草薙神剣で、この剣に宿る天照大神を熱田大神と申し上げ、ご祭神としている。

草薙神剣は元々は八岐大蛇の尾から取り出された剣だが、日本武尊が東征の折にこれを授かった。その後尾張で結婚した宮貴媛命のもとにこの神剣を置いたまま日本武尊は亡くなってしまった。妃である宮貴媛命が神剣を祀ったのが熱田神宮の始まりといわれる。この時から数えて今年がちょうど1900年目にあたり、これを記念して本殿の大改修工事や境内の整備が進められ、この

5月には創祀1900年大祭が執り行われた。熱田神宮は、面積約19万平方メートル（約6万坪）、樹齢千年前後の大木も繁る鬱蒼とした森に抱かれ、本宮の他に一別宮、十二摂社、三十一の末社が祀られている。あたりは荘厳な空気に包まれ、神々の息吹といにしへの歴史のロマンを今に伝えている。

リニア・鉄道館



人やモノの移動を担い、地域と地域をつなげてその発展を支え、明日への夢を育んできた鉄道。JR東海のリニア・鉄道館は、その歴史と次世代へ向けて進化する姿を壮大なスケールで展示している。

圧巻なのは、39両に及ぶ車両展示だ。蒸気機関車として最高速を誇ったC62、JR東海が開発した955形新幹線試験電車、2003（平成15）年に山梨リニア実験線で鉄道の世界最高速度、時速581キロメートルを記録した超電導リニアMLX01-1の記念碑的な車両は人気の。他に昔懐かしい車両の数々がずらりと並ぶ。一部を除き間近に見て触られるのはもちろん、中に入れる車両もあって、それぞれが活躍した時代までが懐かしく偲ばれる。

さらに日本最大級の鉄道ジオラマやN700系新幹線の実物大運転シミュレータもあり、実走行さながらの迫力と臨場感のある体験が可能だ（抽選・有料）。他にも鉄道の歴史、新幹線の誕生秘話など多彩な鉄道文化を体験を交えて楽しく学べるコーナーもある。鉄道ファンでなくとも興味と懐かしさを刺激されて、見応えは十分。人気の展示施設として、名古屋の見逃せないスポットとなっている。



講演者プロフィール

特別講演

トヨタ自動車株式会社
常務役員
IT・ITS 本部長、事業開発
本部長

友山 茂樹 氏



昭和33（1958）年生まれ。昭和56（1981）年群馬大学工学部機械工学科卒業、トヨタ自動車株式会社入社。

生産技術、生産管理、国内営業などを経て、平成12（2000）年GAZOO事業部（現在のe-TOYOTA部）を設立し、車ユーザーへの情報サイト「GAZOO」を立ち上げ、平成14（2002）年には移動体通信を使った車載情報サービス「G-BOOK」をスタートさせた。

その後、中国を中心としたアジア地域で同様のサービスを展開。平成22（2010）年から常務役員として、IT/ITS、および新規事業開発を担当し、トヨタのスマートグリッド戦略を推進。

トヨタメディアサービス株式会社 代表取締役社長を兼務。

記念講演

作家・慶應義塾大学講師
一般財団法人竹田研究財団
理事長

竹田 恒泰 氏



昭和50（1975）年、旧皇族・竹田家に生まれる。明治天皇の玄孫にあたる。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。専門は、憲法学・史学。作家であり、また慶應義塾大学法学研究科講師（憲法学）として、「憲法特殊講義（天皇と憲法）」を教えている。また、全国各地で真実の日本を教える「竹田研究会」という会員制の勉強会を展開している。会員数は、日本全国で8,000人（平成25年現在）。

（著書）平成18（2006）年『語られなかった皇族たちの真実』（小学館）で第15回山本七平賞を受賞。

平成21（2009）年に、論文「天皇は本当に主権者から象徴に転落したのか？」で、第2回「真の近現代史観」懸賞論文・最優秀藤誠志賞を受賞。

その他の著書として、『旧皇族が語る天皇の日本史』（PHP新書）、『皇族へのソボクなギモン』（扶桑社）、新潮45に連続掲載した小説『弟宮』など多数。また、32時間にわたる古事記上中下巻すべての講義をまとめた『DVDボックス 古事記完全講義』DVD1～4全16枚（各ボックス4枚組）の発売や、数々のテレビやラジオ番組などに出演するなど、多方面の分野で活躍中。